（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山田　恭子	所　属	グローバル教育支援機構アドミッション部門	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	担当する授業（教育心理学）を通して，知識の定着，その知識の応用を図る。 具体的には講義の他，様々なアクティブ・ラーニングの手法を用いる。	0.20	担当する授業では，一斉授業による講義を行なった他，学生が自分たちで授業を組み立て実施する機会を設けたり，テーマを設定して調べ学習を行なう機会を設けたりした。また，事例にどのような対応ができるかを考える機会も設けた。 また，新しい読書手法を取り入れたりして，学生が実際に教壇担ったときに，すぐに使えるスキルの提供もできるよう努力した。
研究	0.20	他大学の教員・高等学校教員と協働し，アクティブ・ラーニングを教育に活かす方法や組織内外の課題解決のための手法の開発・推進を行う予定である。	0.20	他大学の教員と，アクティブ・ラーニングをどのように教育に活かすことができるのか，情報交換を行なった。それを実際に検証し，教育現場に還元できるよう，今後も開発推進を継続する予定である。
社会貢献	0.20	高大接続改革推進ワーキンググループや高等学校訪問等を通じて，高校生，受験生，大学生のためになる入試方法を開発する。その一方で高校が必要とする情報を提供する。	0.20	高大接続改革推進ワーキンググループだけでなく，積極的に県内外の高等学校を訪問し，情報収集を行なった。その内容を主に入試広報に活かし，様々なイベントを実施した。今後もブラッシュアップを行なっていく予定である。
管理運営	0.40	新しい入試の実施と志願者の確保に向けて，1）各方面から情報収集を引き続き行う　2）収集した情報を関係各所に提供する　3）収集した情報を基に，企画立案を行う　4）企画立案した内容を関係各所と連携し実現していく　5）これまでに企画立案し実施した内容の効果測定と改善を行う	0.40	1）県内外の高等学校，受験産業，セミナー等を通して，情報収集を実施した。継続の予定である。2）FDを通して，大学内にその情報を提供した。この部分はまだ改善の余地があるので，来年度の課題としたい。3）4）県内外で様々なイベントを新たに企画立案，実施した。5）イベント時のアンケート等を基にして，新たな課題を見つけ，次年度に行なうイベント内容の改善を行なっている。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	盛山　泰秀	所　属	グローバル教育支援機構アドミッション部門	職　名	特命教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00		0.00	
研究	0.20	1，平成32年度入試に向け、入試制度の研究と、高校現場の要望・意見を聴取し、スムーズな実施に向け、調査研究する。	0.15	1，年間を通して高等学校を訪問した。高校現場の要望・意見等をアドミッションセンターの会議等で必要に応じて報告し、様々な取組に要望を取り入れた取組を実施できた。
社会貢献	0.40	1，高校訪問を積極的に取り組む。今年度はオープンキャンパスの実施方法の変更の周知に努め、円滑な実施の環境作りに取り組む。 2，高大接続の取り組みを支援・コーディネートを進める。 3，高等学校のPTAに積極的に働きかけ、琉大への理解を進め、志願者増に取り組む。	0.45	1，オープンキャンパスを前半と後半で参加する高校を振り分ける取組を実施した。結果、周辺の交通渋滞の緩和や1日を通した生徒の参加が実現できた。 2，医学部と工学部のコーディネートができた。 3，県高等学校PTA連合会との連携や、各高等学校のPTAへの積極的な説明会等取り組んだが、志願者増にはつながっていない。
管理運営	0.40	1，琉球大学の受験関係のデータの整理・分析を進め、課題の洗い出しと改善策を明確にする。 2，入学後のミスマッチ対策として、各種大学説明会を積極的に活用し、琉大情報の発信に努める。 3，広報部門の担当として、広報の全体的な取り組みを明確にして、実施に取り組む。	0.40	1，課題の洗い出しはほぼ終了した。県外への改善策はほぼ目処が立った。しかし、県内への改善策は開発の余地を残している。　2，琉球大学を知ってもらうことを主眼に取り組んだ。活用できる説明会はほぼ対応した。今後は視点を変えた活用を検討したい。　3，広報全体の活動を再検討しながら、年間計画を立案実施した。保護者への取組等幅の広い活動ができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山田　美都雄	所　属	グローバル教育支援機構アドミッション部門	職　名	特命講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	共通教育科目の提供	0.10	・２月中旬に共通教育科目「地域課題フィールドワーク演習」を集中講義（計５日間）として開講した。
研究	0.40	入試関連の調査・データ分析・結果報告 科研費への応募	0.40	・経営協議会での話題提供資料を作成し，資料提出した。 ・学部訪問に際して，各学部の入試統計資料を分析し，資料提出した。 ・学部からの分析依頼に4件程度対応した。 ・新入生調査を企画・実施し，結果を取りまとめ，報告した。次年度の新入生調査を企画・実施した。 ・琉球大学説明会（高校訪問）のアンケートを企画・実施し，結果を取りまとめ，報告した。 ・オープンキャンパスアンケートを企画・実施し，結果を取りまとめ，報告した。 ・推薦入試に関する県内高校への聞き取り調査を実施し，結果を取りまとめ，報告した。 ・2018年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会にて，研究報告を行った。 ・大学入試研究ジャーナルに論文を投稿し，掲載可との審査結果を受けた。 ・面接試験に関するFDの開催に際し，面接試験に関する学内入試データを分析し，報告した。 ・科研費については，研究計画の取りまとめが間に合わず，応募を見送った。
社会貢献	0.20	高大接続改革に関する県内高校等との連携 各種入試広報（大学説明会等）	0.10	・琉球大学説明会（高校訪問）に参加し，情報提供を行った。 ・推薦入試に関する聞き取り調査の結果を高校へフィードバックした。 ・那覇国際高校でのSGH支援に参加し，高校生に指導を行った。 ・全国国公立・有名私大相談会2018（名古屋），大阪・東京でのオープンキャンパスのほか，受験産業主催の県内での大学等合同説明会に参加した。
管理運営	0.30	入学者選抜改革に関わる各種取組の推進 アドミッション部門に関する各種会議への参加 教学IRに関する会議への参加 共通教育に関する会議への参加	0.40	・本学の入学者選抜改革に際して，学内検討用の基礎的資料を随時作成した。 ・アドミッションセンターの定例ミーティング，アドミッション部門会議に参加した。 ・グローバル教育支援機構・大学評価IRマネジメントセンター連携事業に関する打合せに参加した。 ・グローバル教育支援機構教員会議に参加した。 ・九州大学が主催するアドミッションセミナーに参加し，業務スキルの向上を図った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	西本裕揮		所　属	グローバル教育支援機構	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.25	共通教育においては新設科目として「心理学入門Ⅰ」と「心理学入門Ⅱ」を開設する。さらに新たに担当する科目として「ステージスタッフ総合活動」を担当する。専門教育においては教育学部の「心理臨床実習」「心理臨床演習」等の科目を担当する。また「卒業研究」も担当し、6名のゼミ生の卒論指導を行う。大学院においては、教育学研究科学校教育専攻の「教育実践の研究Ⅱ」等を担当する。	0.25	共通教育においては新設科目として「心理学入門Ⅰ」と「心理学入門Ⅱ」を開設し、定員を超える受講者が集まり、評価も高かった。「ステージスタッフ総合活動」も予定通り担当し、これも高い評価を得た。専門教育においては教育学部の「心理臨床実習」「心理臨床演習」等の科目を担当し、「卒業研究」も担当した。教員採用試験にも2名のゼミ生が合格した。		
研究	0.20	外部資金に関連する研究として、個人研究としては科学研究費補助金（基盤研究C：16K04612 ）「沖縄の小中学生の学力向上に関する実証的研究～離島・へき地支援を中心に～」に取り組む。また共同研究として「アクティブラーニングによる学士課程教育の刷新とそれを可能にする組織開発」（基盤研究B：15H03488）に研究分担者として参画する。さらに学会活動としては、日本教育社会学会理事、日本子ども社会学会の理事を務めるとともに、両学会での発表も行う。それにともない、論文も執筆する予定である。	0.20	外部資金に関連する研究として、個人研究としては科学研究費補助金（基盤研究C：16K04612 ）「沖縄の小中学生の学力向上に関する実証的研究～離島・へき地支援を中心に～」に取り組んだ。また共同研究として「アクティブラーニングによる学士課程教育の刷新とそれを可能にする組織開発」（基盤研究B：15H03488）に研究分担者として参画した。研究の成果発表として日本教育社会学会大会、日本子ども社会学会大会、日本子ども社会学会研究集会において発表も行った。さらに学会活動としては、日本教育社会学会理事、日本子ども社会学会の理事を務めた。また論文として『教育学部紀要』へ執筆し掲載された。		
社会貢献	0.20	沖縄県教育委員会から委嘱されている家庭教育推進委員会委員、公立中学校夜間学級等設置検討委員会委員を引き続き引き受ける。また日本学術振興会、大学改革支援・学位授与機構からの依頼にも積極的に対応する。さらに教員免許状更新講習も4コマ担当する。	0.20	沖縄県教育委員会から委嘱されている家庭教育推進委員会委員、公立中学校夜間学級等設置検討委員会委員を引き続き引き務めた。また日本学術振興会、大学改革支援・学位授与機構からの依頼を受け、講演等を行った。当初の予定にはなかったが、沖縄市から「沖縄市こどもの生活等に関する調査協議会」委員の委嘱を受け、委員長を務めた。さらに教員免許状更新講習も予定通り4コマ担当した。		
管理運営	0.35	グローバル教育支援機構授業支援副部門長として各種の全学的な委員会活動に携わる。また引き続き、グローバル教育支援機構会議委員等を務める。さらに全学学士教育プログラム委員会副委員長として議題についての企画・立案に携わる。同様に大学院教育プログラム委員会においても中心的な役割を担い、全学的なURGCCの推進にかかわる予定である。	0.35	グローバル教育支援機構授業支援副部門長として各種の全学的な委員会活動に携わった。また引き続き、グローバル教育支援機構会議委員等を務めた。特に毎月開催された全学学士教育プログラム委員会と全学大学院教育プログラム委員会においては、企画・立案に携わり、進行役を務めた。		
	0.00		0.00			
計	1.00		1.00			
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			□　学外公表に同意しない。	□　学内外公表に同意しない。		

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	天野智水	所　属	グローバル教育支援機構	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	①共通教育科目「大学教育論」1コマ，専門教育科目「教育社会学」2コマ，大学院科目「大学組織特論」「大学教育マネジメント特論」各1コマ（受講生がいる場合）を開講する．②学生生活委員として体育祭や琉大祭等の巡回指導を行う．③次年度開講を予定して新規の共通教育科目を設計・申請する．	0.15	①共通教育科目「大学教育論」1コマ，専門教育科目「教育社会学」2コマを担当した．大学院科目については受講希望者がなく実施しなかった．②学生生活委員として体育祭と琉大祭の巡回指導を行った．③共通教育科目の新規申請は行わなかった．
研究	0.40	①科研費採択課題「日本の大学における同僚制の実証研究」を実施する．②①に関連する予備研究の成果を研究ノートとして紀要に掲載する．③共同研究「大学における教育改善等のための組織体制のあり方」の成果を報告書として発表する．	0.45	①科研費の補助を得て「日本の大学における同僚制の実証研究」を実施した．具体的には全国調査用質問紙作成と事例訪問調査を行った．②①に関連する既存データ分析結果を研究ノートとして『大学論集』に掲載した（H31年3月刊行予定）．③共著報告書「大学における教育改善等のための組織体制のあり方」の担当章を脱稿した（H31年度刊行予定）．
社会貢献	0.05	高大連携事業（計画未定）に参加する．	0.00	実施しなかった．
管理運営	0.40	①入学試験問題全学点検委員長を務める．②機構会議，共通教育部門会議，学士・院プログラム委員会（およびWG），IRコアチームの委員を務める．③大学評価IRマネジメントセンターIR企画員を務める．④新任教員研修及びその他の教職員研修（計画未定）の講師を務める．⑤アクティブラーニングのガイドブックを作成する．⑥教職員研修の企画立案を行う．	0.40	①入学試験問題全学点検委員長を務めた．②各種委員として審議に加わった．③大学評価IRマネジメントセンターIR企画員を務めた．④新任教員研修（4/3実施）及び授業支援部門FD（3/7予定）の講師の一人を務めた．⑤FDガイド（AL篇）を作成した．⑥教職員研修の企画立案は行わなかった．⑦学生生活実態調査専門委員長および卒業生調査検討WG座長として調査項目を検討し，前者については報告書の分担執筆を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	MURRAY ADAM	所　属	グローバル教育支援機構国際教育支援部門（外国語ユニット）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	I will be responsible for 14 koma during the academic year. Between the semesters, I will work on updating my learning management system (LMS) which I have been using for listening instruction for the past seveiral years. I will also be preparing students for the Japan English Model United Nations (JEMUN).	0.40	Despite having a busy semester, I was able to do some maintenance and content work on my LMS. This work will need to be completed in H31. Unfortunately, I was not able to get as much done as planned. I am pleased to say that two students successfully participated at JEMUN (and won awards)
研究	0.30	Because my research is focused on classroom application, there is a productive synergy between my teaching and research. I continue research on listening materials development and assessment and prepare a KAKEN grant proposal for H31. In addition, I will be presenting/co-presenting at several academic conferences during the year. Finally, I will continue to be active member of several professional organizations.	0.30	I was able to complete and submit a KAKEN (C) proposal for H31. I presented at a number of domestic and international conferences during the academic year such as JALT, JAFAE, JACET, JASELE and CamTESOL.
社会貢献	0.10	I am currently the Cordinator of the Materials Writers Special Interest Group (SIG) of the Japan Association of Lanugage Association (JALT). I am also the Treasurer of the Okinawa Chapter of JALT.	0.20	My activities with JALT took a lot more time than expected – particularly the accounting responsibilities of Okinawa JALT.
管理運営	0.10	I will likely be on an important, yet top-secret committee. In addition, I will likely be involved with the development of overseas exchange programs. When requested, I will assist with English-language editing/proofreading for university materials, external communications, etc.	0.10	I successfully completed my duties on the top-secret committee. I was added to the P.I.G. group to work on university marketing materials.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	葦原　恭子	所　属	グローバル教育支援機構国際教育支援部門（留学生ユニット）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	1.共通教育科目を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分に行い、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させる。 2.大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをする。卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生、学部生、大学院生の就職相談に応じ、就職支援事業への参加を促す。 3. 日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをする。2018年度にサバティカル取得中の教員の代講で日本語教育概説の講義を担当し、副専攻の日本語教育副専攻に入門し始めた学生が学習を継続し、より多く副専攻を修了できるよう指導する。 4.就職支援事業の修了生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献する。 5. 日本語科目を受講希望している大学院生、研究生のコーディネータとして履修指導を行う。履修中は、博士論文、修士論文、レポート、研究発表用資料などの日本語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となるべく務める。 6.2019年度の国際教育科目（仮称）の構築に向けて、ワーキンググループの一員としての務めを果たす。	0.30	1.共通教育科目を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分に行い、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うべく努めた。学期開始前に実施した大規模テスト（J-CAT）を学期終了後にも実施し、結果を比較したところ、90%以上の学生について日本語能力の伸びが認められた。また、教員が独自に実施したアンケート調査結果では、授業について高評価が得られた。 2.大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをした。卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生、学部生、大学院生の就職相談に応じ、就職支援事業への参加を促した。 3. 日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うよう努めた。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをする。2018年度にサバティカル取得中の教員の代講で日本語教育概説の講義を担当し、副専攻の日本語教育副専攻に入門し始めた学生が学習を継続し、より多く副専攻を修了できるよう指導した。就職支援にも積極的に取り組み、副専攻修了生のうち5名が沖縄県内の日本語教育機関に就職した。 4.ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献することを目的として、就職支援事業の修了生に追跡調査を実施し、調査結果は論文化して広く一般に公開した。 5. 日本語科目を受講希望している大学院生、研究生のコーディネータとして履修指導を行う。履修中は、博士論文、修士論文、レポート、研究発表用資料などの日本語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となるべく務めた。数名の学生のために推薦書を準備し、大学院進学に貢献した。 6.2019年度の国際教育科目（仮称）の構築に向けて、打ち合わせを頻繁に実施し、ワーキンググループの一員としての務めを果たした。（A）
研究	0.30	1. 科学研究補助金基盤研究（C）「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、国内での研究会を実施し、ビジネス日本語フレームワーク案を完成する。 2. 沖縄県日本語研究研究会で1の科研費研究の研究成果の一部を口頭発表する。 3. 琉球大学国際教育センター紀要に1の研究成果を研究論文として投稿する。	0.30	1. 科学研究補助金基盤研究（C）「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、国内での年間10回以上の研究会を実施し、ビジネス日本語フレームワーク案を目指して、研究を継続した。構築したビジネスフレームワーク案の妥当性検証および尺度化を達成するために、新たな科研費を獲得すべく申請した。 2. 2019年3月9日に、沖縄県日本語研究研究会で1の科研費研究の研究成果の一部を口頭発表した。また、研究成果の一部を論文として執筆し、研究チームの教員が所属している大学の紀要に応募し、査読を経て、採択が決定し、現在、印刷中である。2019年3月末に刊行予定である。 3. 琉球大学国際教育センター紀要にも、1の研究成果を研究論文として投稿すべく、執筆中である。2019年3月末に刊行予定である。（S）
社会貢献	0.20	1. インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、県内企業に優秀な留学生を就職させるべく努力する。 2. 文部科学省の住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業コーディネータとして事業の運営、発展に努める。 3.2の事業について28年度の成果を留学生交流実務担当者養成プログラム（報告会）等にて発表する。	0.20	1. インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、県内企業に優秀な留学生を就職させるべく努力した。 2. 文部科学省の住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業コーディネータとして事業の運営、発展に努めた。 3.2の事業について29年度の成果を報告書としてまとめて、文部科学省に提出した。 4. 琉球大学未来共創フェアに参加し、チラシ作成、プレゼンテーション担当として貢献した（3/23予定）（A）
管理運営	0.20	1.STRPプログラムプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たす。また、海外の協定校を訪問し、留学フェアに参加する、説明会を開催するなどして、交換留学による交流を促進し、交換留学生の獲得に努める。さらに協定校を増やすべく、申請書を作成する、協定候補校とやりとるするなどして、貢献する。 2.国際連携担当者連絡会の委員として、与えられた職務を全うする。 3.国内の進学説明会に積極的に参加し、学生の獲得に努める。 4. ハラスメント防止対策委員会の委員としての職責を果たす 5.JASSOの奨学金獲得すべく、申請書類等を作成に貢献する。 6.戦略1のワーキングループ担当教員としての務めを果たす。	0.20	1.STRPプログラムプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たす。また、海外の協定校（ミシガン州立大学、ハワイ大学マノア校、ハワイ大学ヒロ校、カウアイコミュニティカレッジ、マウイコミュニティカレッジ）を訪問し、留学フェアに参加する、説明会を開催するなどして、交換留学による交流を促進し、交換留学生の獲得に努めた結果、当該大学からコンスタントに留学生が派遣されている。さらに協定校を増やすべく、申請書を作成する、協定候補校とやりとりした結果、新たにイースタンミシガン大学（米国）および京畿大学（韓国）と交流協定が締結された。2019年度10月以降、学生交流が開始予定。 2.国際連携担当者連絡会の委員として、与えられた職務を全うした。 3.東京の進学説明会に積極的に参加し、学生の獲得に努めた。 4. ハラスメント防止対策委員会の委員としての職責を果たすべく、年数回の会議にもれなく出席し、またハラスメント調査委員としても職責を果たした。 5.JASSOの奨学金獲得すべく、申請書類等を作成に貢献した結果、STRPプログラムおよびインターンシッププログラムについては奨学金を獲得した。 6.戦略1のワーキングループ担当教員として太平洋島嶼国の学生に対する日本語指導、進路指導を行った。 7.国際教育専門委員会の委員として、会議に出席し、日本人学生の派遣面接担当官としても貢献し、職責を果たした。 8.全学点検委員会委員として、入試業務を担当し、与えられた職務をあますところなく全うした。（S）
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山元淑乃	所　属	グローバル教育支援機構国際教育支援部門（留学生ユニット）	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	・ 協働学習による学習者主体の授業を行う。 ・ 日本語初級、初中級コース、文化関連科目のコーディネーターとして、今年度の共通教育における円滑な運営と、来年度の国際教育センター提供科目の新カリキュラム創設に取り組む。	0.25	・文法A1、文法B1の授業で、協働学習による学習者主体の授業を実施した。 ・日本語初級、初中級、文化関連科目のカリキュラム改革を継続し、再来年度の新規科目群設立にむけて準備を進めた。 ・留学生ユニットの教育理念の公開に向けた取り組みを開始した。 ・学生主体の授業に必要な教育環境整備のため、教育研究等アメニティ改善経費を申請したが、「非常に重要な取り組みであるため、より上層部への申請が望ましい」と却下されたため、来年度別の形で申請予定である。 (A)
研究	0.35	・ 昨年度末に提出した博士論文の「日本語学習者の発話キャラクタ獲得過程とその要因の解明」の研究成果の公開に努める。 ・ 新しい研究テーマ「非ネイティブスピーカー志向の日本語学習モデルの開発」について外部資金獲得に努め、研究を開始する。	0.20	・「日本語学習者の発話キャラクタ獲得過程とその要因の解明」という題目で名古屋大学教育発達科学研究科より博士号を取得した。 ・「非ネイティブスピーカー志向の日本語学習モデルの開発」について琉球大学若手・女性・外国人研究者支援を獲得し、査読付き論文を投稿した（採択決定、平成31年度刊行予定）。 (S)
社会貢献	0.15	・ 地域と留学生の交流活動等を企画、実施する。 ・ 地域にも開かれたFD等を企画し、実施する。 ・ 日本語教育学会支部活動委員として九州沖縄地区の活動の運営に携わる。	0.25	・これまで留学生ユニット単独で行っていた地域貢献イベントについて、地域連携推進機構、グローバル教育支援機構開発室、西原町と協力関係を築き、グローバルフェスティバルとして開催した。 (S)
管理運営	0.05	・ 委員を担当する委員会のメンバーとして責務を果たす。 ・ URSEPプログラム、進学前予備教育コースのコーディネーターとして責任を果たす。 ・ 入試業務の責任を果たす。	0.05	・国際教育専門委員、科目等企画委員として責務を果たした。 ・URSEPコーディネーターとして責務を果たした。 (A)
国際交流	0.20	・ 津梁プロジェクトと連携し、日本人学生と留学生の協同学習の推進に取り組む。 ・ 戦略1にかかわる太平洋島嶼地域からの編入留学生受け入れに取り組む。 ・ 日本で進学や就職の希望を持つ交換留学生を積極的に支援し、日本国内の優秀な人材の確保に貢献する。	0.25	・COIL型授業について積極的に情報収集を行い、マーシャル諸島短期大学とのオンラインによる協働プレゼンテーション学習を実施した。 ・新規の短期交換留学プログラム「グローバルリーダー育成プログラム」の企画に着手し、JASSOの奨学金獲得の可能性を得た。 (A)
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　**□　学外公表に同意しない。**　　**□　学内外公表に同意しない。**

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	名嶋　義直	所　属	グローバル教育支援機構国際教育支援部門（留学生ユニット）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	グローバル教育の展開を進める。具体的には以下の4点を目標とする。（1）留学生ユニットの教員全員でグローバル教育のための科目群の設置を検討し作業を進める。（2）日本語教育副専攻主任として日本語教育副専攻コースの一層の充実を図る。（3）オープンキャンパスで高校生・在校生に働きかけを行う。（4）自身が担当する授業においては留学生と日本人学生の共修を通して，批判的リテラシーや民主的市民性のための教育を実践する。	0.25	（1）留学生ユニットの教員全員でグローバル教育のための科目群の設置を検討し作業を進めることができた。事務的な問題で新科目の設置は叶わなかったが，再来年度の科目群設置に向けて道筋がついたと考える。（2）日本語教育副専攻主任として日本語教育副専攻コースの一層の充実を図ることができた。特に開講2年目の日本語教育演習では学部生3人の研究指導を実施することができた。来年度も継続して指導する予定である。（3）オープンキャンパスで高校生・在校生に働きかけを行うことができた。（4）自身が担当する授業においては留学生と日本人学生の共修を通して，批判的リテラシーや民主的市民性のための教育を実践した。その成果は国内外のシンポジウムで基調講演や特別講義という形で発信することができた。（A: 当初どおり達成）
研究	0.30	批判的談話研究や市民性教育の実践研究を進め，その研究成果を学会・国際シンポジウム等で発表し，論文や書籍の形で社会に還元する。次年度に向けて科研費研究の計画を策定し公募に応募する。	0.30	批判的談話研究の単著を1冊刊行した。また編者として市民性教育の実践研究に関する共著書を編集した（入稿済み）。その他，査読付きの書評論文1本，依頼研究論文1本，依頼書評1本を発表した。科研費研究の計画を策定し公募に応募した。（S: 当初予定以上）
社会貢献	0.20	民主的市民性の重要性を社会に広めるべく，日本語教育出版社の協力を得て複数回講演を行う。理事を務めている韓国日本語学会で講演を行う。留学生ユニットが主催するFDと研究会（いずれも一般公開）を中心的に企画・運営する。寄付金による社会貢献事業を行う（本年度最終年度）。日本科学者会議の大会現地実行委員を務める。	0.30	民主的市民性の重要性を社会に広めるべく，全国6箇所で講演を行った。韓国日本語学会で基調講演を行った。留学生ユニットが主催するFDと研究会（いずれも一般公開），およびグローバルフェスティバルを他教員と協働して企画・運営した。寄付金による社会貢献事業として2018年9月/2019年3月（2回）の計3回シンポジウムを行った。うち2回は共同運営であった。日本科学者会議の大会現地実行委員を務め全体会2を他委員と2人で企画運営し成功裏に終了した。（S: 当初予定以上）
管理運営	0.20	学生生活委員会，学生支援・指導専門委員会，地域交流関連の委員会，日韓共同理工系学部留学生事業実施委員会，などの委員を務める。	0.15	学生生活委員，学生支援・指導専門委員，学生生活実態調査専門委員，地域連携推進会議委員，日韓共同理工系学部留学生事業実施委員，を務めた。（A: 当初どおり達成）
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	古川　卓	所　属	グローバル教育支援機構保健管理部門	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	1. 共通教育科目「適応の心理」の担当。 2. 人文社会科学研究科人間科学専攻臨床心理学領域の担当。	0.20	1. 共通教育科目「適応の心理」を前・後期開講した。 2. 人文社会科学研究科人間科学専攻臨床心理学領域で「グループアプローチ特論」「老年心理学特論」の他、実習指導を担当した。 3. 保健学科「生命倫理学講義」を1回担当した。
研究	0.20	1. 臨床心理学分野の学会で研究発表、論文発表を行う。	0.10	1. 研究発表、論文発表の実績は無し。 2. 日本心理臨床学会で自主シンポジウムの企画・司会を行った。 3. 日本臨床心理劇学会第44回大会を主催した。
社会貢献	0.20	1. 大学保健管理に関する団体での役員。 2. 臨床心理学分野の学会の役員。 3. 琉球大学公開講座への講座提供。 4. 地域の障がい者支援。	0.20	1. 一般社団法人国立大学保健管理施設協議会理事、公益社団法人全国大学保健管理協会評議員を務めた。 2. 日本学生相談学会理事、日本臨床心理劇学会常任理事、日本リハビリテイション心理学会常任理事を務めた。 3. 琉球大学公開講座8講座開講した。 4. 沖縄県中南部、名護市、石垣市、宮古島市の障がい者とその家族の療育活動に指導助言を行った。
管理運営	0.20	1. ダイバーシティ推進本部委員。 2. 学生生活委員。 3. 学生相談室長。 4. 障がい学生支援室室長・運営委員。 5. 教育・学生支援に関する自己点検・評価委員。 6. 全学情報システム技術専門委員。 7. 臨床研究倫理審査委員。 8. 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会	0.30	1. ダイバーシティ推進本部委員を務めた。。 2. 学生生活委員を務めた。 3. 学生相談室長を務めた。 4. 障がい学生支援室室長・運営委員を務めた。 5. 教育・学生支援に関する自己点検・評価委員を務めた。 6. 全学情報システム技術専門委員の活動はなかった。 7. 臨床研究倫理審査委員を務めた。 8. 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会委員を務めた。
診療	0.20	1. 学生とその関係者のカウンセリング。 2. 教職員のカウンセリング。	0.20	1. 学生とその関係者のカウンセリングを行った。 2. 教員のカウンセリング、職員へのコンサルテーションを行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　☐ **学外公表に同意しない。**　☐ **学内外公表に同意しない。**

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	崎間　敦	所　属	グローバル教育支援機構　保健管理部門	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	1. 保健管理センター医師として、学生定期健康診断における有所見者に対して健康教育を実施し、学生の健康増進をはかる。 2. 学内非常勤講師として、医学部学生への腎泌尿器疾患の系統講義を行う。　3. 共通教育で講義を担当し、学生の健康教育を行う。	0.30	1. 保健管理センター医師として、学生定期健康診断における有所見者に対して健康教育を実施し、学生の健康増進を行った。 2. 学内非常勤講師として、医学部学生へ腎泌尿器疾患の系統講義を行った。 3. 共通教育で講義を担当し、学生の健康教育を行った。
研究	0.20	1. 英語原著論文を1本投稿する。 2. 日本語総説を1本投稿する。 3. 学会で研究成果（「健康行動実践モデル実証事業」など）を発表する。	0.20	1. 英語原著論文が3編アクセプトされた。 2. 日本語総説を2本、分担執筆1本した。和文原著論文が1本アクセプトされた。　3. 学会で研究成果（「健康行動実践モデル実証事業」など）を発表した。
社会貢献	0.20	1. 県内の医師会や日本医師会生涯教育講座の講師として、地域医師の生涯教育や産業保健活動に貢献する。 2. 沖縄県一括交付金「健康行動実践モデル実証事業」の成果の普及活動を継続する。 3. 沖縄県医師会65歳未満健康死亡率改善プロジェクトの副委員長として、沖縄県民の健康づくりに貢献する。	0.20	1. 県内の医師会や日本医師会生涯教育講座の講師として、地域医師の生涯教育や産業保健活動を行った。 2. 沖縄県一括交付金「健康行動実践モデル実証事業」の成果の普及活動を継続した。 3. 沖縄県医師会65歳未満健康死亡率改善プロジェクトの副委員長として、沖縄県民の健康づくりを実施した。
管理運営	0.30	1. 保健管理部門の診療施設長として診療の管理運営を行う。 2. 琉球大学千原事業場産業医として、安全衛生保健活動を行う。 3. 産業巡視報告を毎月作成する。 4. 安全衛生委員会へ参加する。 5. ストレスチェック業務と職員健診のフォローアップと健康教育を行う。	0.30	1. 保健管理部門の診療施設長として診療の管理運営を行った。 2. 琉球大学千原事業場産業医として、安全衛生保健活動を行った。 3. 産業巡視報告を毎月作成した。 4. 安全衛生委員会へ参加した。 5. ストレスチェック業務と職員健診のフォローアップと健康教育を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	温山　陽介	所　属	グローバル教育支援機構　キャリア教育支援部門	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	①講義「キャリア形成入門」週2コマ担当 （履修学生全員との面談によるキャリアデザイン支援含む） ②インターンシップ事業のコーディネートと次年度運営体制づくり ・参加学生昨年比10%増 ・昨年学生を派遣できなかった企業へのインターン生派遣 ・次年度運営体制とミッションの整理、各ステークホルダーとの調整	0.60	①目標通りの講義を担当した。講義を履修した学生のうち、8割はプログラム中に何らかの主体的な学習実践を始めることができていた。また学生からの反応、評価も高いと思われる（前期授業評価アンケート満足度総合評価平均4.37） ②インターンシップ事業は部分的に目標を達成した。 ・参加学生昨年比は20%減であった。昨年以上の広報を行ったが、プログラムの魅力をアピールできなかったと思われる。フェアの参加は昨年より微増だったことから、次年度はフェア内でのプログラム説明に力をいれる。 ・新規企業を3社開拓（うち1社参加・派遣）した。 ・次年度の運営体制を中心になって構成した。
研究	0.10	①学内紀要等への論文掲載1本	0.10	地域連携推進機構紀要へ1本掲載（予定）「大学におけるライフ・キャリアのキャリア教育の実践とその可能性—生涯学習との関係性に着目した予備的思考—」
社会貢献	0.10	①次年度の高等学校教員免許更新講習講座開催に向けた準備 ②高校生向けキャリア教育講話の実施	0.10	①教員免許更新講習に向けたカリキュラムを準備した ②今年度はその必要性において優先順位が低く、実施しなかった。
管理運営	0.20	①キャリア教育センター内の業務改善 ・学生向け教育支援業務の改善 ・スタッフデベロップメント ②全学向けキャリア教育FD実施	0.20	①キャリア教育センター業務として以下の点に注力した ・センターTwitter開設・更新作業、キャリア教育センター意見交換会を開催、ホームページ内容の精査・検討・修正依頼 ・学内FD/SD講習実施。しかし、キャリア教育センター内のSDは実施できなかった。 ②学内SD/FD講習実施。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城愛乃	所　属	グローバル教育支援機構開発室	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.70	・特別編入学体制の整備強化 ・特別編入学生と琉大生との協働教育に関する取組み強化（グローバルプログラム津梁との協働） ・編入学候補生らの教育および生活支援	0.40	・編入学生の奨学金書類作成をサポートし、無事2つの機関から2年間の奨学金受給資格を得ることができた。 ・各国の政府関係者ら情報交換の場を得ることができ、国レベルでの本事業の周知に役立てられた。 ・編入学試験に関する要望書を学部に提出し、事業としての希望を明確に示すことができた。 ・編入学試験募集要項英訳版（外国人受験生に特化した一部抜粋版）を作成した。 ・交換留学・科目等履修でパラオから新規2名の学生を受入れ、理事との懇談機会を設けた。 ・編入学試験前後のオンラインによる日本語学修支援を目指し、琉大と3地域を試験的にオンラインでつないで学生間の交流を行った。また短大関係者らとネット接続環境・学生の関心等について意見交換を行った。
研究	0.10	交換留学生（戦略1当該地域）の学生調査（2回） ・県内企業を対象とした留学生（特別編入学生）に対する人材ニーズ調査	0.10	・留学効果比較のため学生調査を行った。 ・学生調査の製作者による説明会に参加し、製作者本人から直接今後の調査活用の指南を受けた。
社会貢献	0.10	・太平洋島嶼地域に関連するイベントの企画・参画	0.30	・在ミクロネシア日本国大使館の希望をうけて、パラオ・マーシャル・ミクロネシアの三地域を回る琉球芸能ツアーを敢行し、合計で約3000人の観客数を動員し、地方紙に事業内容が掲載された。
管理運営	0.10	・戦略1の運営（グローバルプログラム津梁と協働）	0.20	・GP津梁主導のグローバル・フェスティバルに太平洋地域枠としてブースを設け、地域交流のきっかけを設けた。 ・図書館グローバル・コモンズエリアの展示スペースにて、交換留学情報と絡めた太平洋島嶼地域に関するキュレーションを企画・展示した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	當間千夏		所　属	グローバル教育支援機構開発室	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・本学学生向け学際・国際協働ワークショップ等の実施 ・本学学生の海外渡航に関する情報収集の機会（留学セミナー等）の企　画・運営	0.30	・学際・国際協働演習の開講に向けて、国際協働ワークショップ『フライデームービーナイト』を計6回企画・実施し、本学学生、留学生、職員による延べ96人の参加があった。 ・日本ワーキングホリデー協会と共同で、本学学生に向けた『留学・ワーホリセミナー』を計2回企画・運営し、本学学生による延べ41人の参加があった。
研究	0.00		0.00	
社会貢献	0.05	・学際・国際協働演習、課外での異文化交流事業における地域との連携	0.05	・グローバル・コモンズ津梁内で本学オープンキャンパス来場の高校生及び保護者に向けて、大学留学についての情報提供イベントを実施した。 ・グローバル津梁プログラム（副専攻）における協働授業開講に向けて、西原町と連携し、琉大生・留学生・西原町高校生が協働で計画、実施する『グローバルフェスティバル』を行った。
管理運営	0.65	・戦略1『グローバル・プログラム津梁』の運営 ・異文化協働副専攻立ち上げに向けたプロジェクト運営 ・グローバル・コモンズ津梁の運営及び利用促進 ・グローバル・コモンズ津梁における学生サポーターの企画・設置・運営 ・グローバル・プログラム津梁ホームページ等ウェブ媒体を利用した情報　発信	0.65	・グローバル津梁プログラム（副専攻）立ち上げに向けて、教員組織、委員会の発足、科目の選定等の運営を行った。 ・グローバル・コモンズ津梁の整備運用及び本学教員及び学生によるグローバル・コモンズ津梁の利用促進を行った。 ・グローバル・コモンズ津梁の活用及び留学・語学学習の促進を目的として、12月より学生サポーター（グローバル・コモンズ　コンシェルジュ）の企画・設置・運営を行った。12月−2月の間で本学学生による延べ83名の利用があった。 ・グローバル・プログラム津梁ホームページに加え、グローバル・コモンズ　コンシェルジュのSNS(インスタグラム、ツイッター)を作成し、積極的に情報発信を行った。また各種事業の広報のため、チラシ等を利用して学生・教職員に向けて広報を実施した。 ・グローバル・モジュールの実用化に向けて、共通教育外国語科目の達成目標をモジュールに取りまとめ、ウェブでの公開を開始した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	宮國泰史	所　属	グローバル教育支援機構開発室	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成30年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	昨年度に引き続き，球大学・ジュニアドクター育成塾プログラムにおいて担当する授業等では，受講児童・生徒の研究能力を高める授業を行うとともに，受講児童・生徒の研究活動をサポートする．また，他の教員の授業も参観し，授業改善点を探るとともに，昨年度の受講生からのアンケート等の評価をもとに，上記授業等の改善を図る．	0.35	球大学・ジュニアドクター育成塾プログラムにおいて担当する授業等では，受講児童・生徒の研究能力を高める授業を行った．また，受講児童・生徒の提出した自由研究計画書へのコメントやアドバイスおよび研究実施における助言を通して，受講児童・生徒の研究活動をサポートした．他の教員の授業も精力的に参観し，また，昨年度の受講生からのアンケート等の評価を参考にしながら，上記授業等におけるワークシートの構造の改善，e-ラーニングシステムにおける授業動画配信等，上記授業等の改善を行った．
研究	0.35	新たな研究を積極的に進めることに加え，これまでに得られている研究内容を学会等に発表するとともに研究論文の投稿を行う．また，所属部局以外の研究者とも共同研究を行う．	0.35	新たな研究を積極的に進め，これまでに得られている研究内容を学会で発表論文集として発表するとと学会の全国大会で口頭発表を行った．その他，琉球大学教育学部紀要等にも研究論文を発表した．また，工学部等，所属部局以外の部局に所属する研究者とともに，児童・生徒の科学的概念の発達に関する解析などの共同研究を行った．
社会貢献	0.15	SSH校を含む学校現場等との連携活動を推進し，様々な教育的課題についての解決に向けた取り組みに協力する．また，教育研究会等の教育関係集会からの要請等にも積極的に対応する．	0.15	SSH校の教員と共同で生徒の自由研究活動をサポートした．また，学校教員免許更新講習での講師として授業を受け持ったほか，沖縄生物教育研究会からの要請に対応して基調講演を行った．８月に行われた科学の祭典で出前授業を行った．また，３月２６日に実施される「琉球大学地域貢献フェア（未来共創フェア2019）」での出前授業を行う予定である．
管理運営	0.15	琉球大学・ジュニアドクター育成塾プログラムにおける運営委員会や，同プログラムにおける連携機関との連絡協議会等において，役割を全うする．	0.15	琉球大学・ジュニアドクター育成塾プログラムにおける運営委員会や，同プログラムにおける連携機関との連絡協議会等に出席し，プログラム概要の説明・進捗状況の報告・データの解析結果および受講生評価結果の報告・プログラムの改善点の提示など，役割を全うした．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。